かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314



河佐分教会

大正14年4月18日　設立
大正15年5月22日　開筵式
昭和61年6月26日　神殿建築及附属建物増築

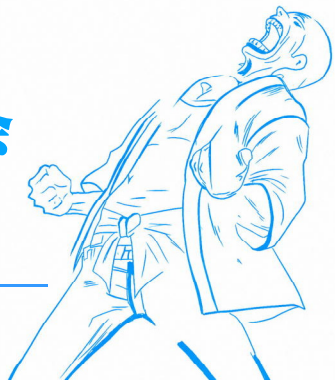
立教189年11月23日（月）午前10時（9時受付）

天理教青年会笠岡分会

青年会長様御臨席総会

～親孝心を、生きる～

おつとめ・式典
感話・抽選会（16時終了予定）



立教189年
10月号

ご臨席総会 事前ひのきしん実施

管理部

管理部（虫明立生部長）並びにご臨席総会会場設営係は、9月17日から20日にかけて大教会内の剪定・草刈りひのきしんを連日15人から20人の参加者で行いました。18日には高屋分教会に滞在する実践課程の3人も、大変暑い中を客殿の刈り終えた草などの片付けひのきしんに汗を流してくれました。

ご臨席総会は青年会が主体ではありますが、笠岡全体での行事でもある上から繋がる信者さん方にも大教会に親しんで頂き、これからの教会人材育成の一助となる様つとめる事も今後視野にいれて管理部の活動をしていきたいと思います。



みんな寄って集って



おしゃべりしてる間に



お茶を飲んだり

当面の活動予定日（10月18日～20日・11月5日～9日・11月18日～20日）には引き続き会場設営の役割を判断した上で剪定・草刈りを中心に取り組みます。次回の10月18日（日）には大教会正面玄関の石畳、両脇の壁の洗浄を優先して行う予定にしています。テント設営は11月23日（月）のご臨席総会直前に行い、状況を見極めながら当日のひのきしん内容をお伝えしますのでご協力くださいます様よろしくお願い致します。

（部長　虫明立生）



こんなにキレイになりました😀

布教推進講習会 開催

9月月次祭後

布教部

布教部（田中隆之部長）は9月21日、淀分教会会長金山雄大先生をお招きし、布教推進講習会を開催した。

講話要旨は次の通り。

笠岡大教会9月月次祭、そして布教推進講習会の開催、誠におめでとうございます。私は淀分教会の会長として京都伏見から参拝し、この場でお話しさせていただくのは15年ぶり4度目になります。これまで青年会総会、学生層育成者講習会、笠岡分会総会などでお話しする機会をいただきましたが、今回は「布教・にをいがけ」をテーマに、言葉の大切さについてお伝えしたいと思います。

数年前、全教一斉ひのきしんデーの日のことです。開始30分前に会場へ向かうと、私より年上のご婦人が近づいてきて「金山先生ですね」と声をかけられました。私は全く覚えがありませんでしたが、その方は名神高速道路・京都南インターチェンジの料金所で働

く、ある教会の用木の方でした。彼女は続けて「先生は高速道路で料金を支払うとき、何も言わずに立ち去られますね」と言われました。私は普段、食堂や店では「ありがとう」「ごちそうさま」と声をかけるよう努めていますが、渋滞で急いでいる時など、料金所では無言で通過していたのかもしれません。全く記憶はありませんが、彼女はその一瞬を覚えていたのです。その方はさらにこう続けました。「私たちは毎日何十台、何百台の車と応対します。中には小銭を投げ込む人、罵声を浴びせる人もいます。そんな中で、たった1人でも『ありがとう』『ご苦労さま』と言ってくれると、本当に嬉しいし、心に残るんです。もっと丁寧に応対しようという気持ちにもなるんですよ」。そして最後に「せめてお道の人ぐらい、ありがとうと言って損はないんですよ」と言われました。私は深く反省し、これからは必ず笑顔で声をかけようと心に決めましたが、すぐにETCレーンに変わってしまい、言葉をかける機会がなくなってしまいました。しかし、教えられたのは「言葉一つ」の重みでした。

おさしづには「日々という言葉一つという、これ聞き分けてくれるよう」とあります。毎日の小さな言葉こそが、人の心を動かし、にをいがけとなるのです。教祖100年祭の旬に出た論達にも「一言にをいがけは人の運命を変える。親の声を聞くとき心の向きが変わるからである」とあります。用木の一言が人の心の向きを変えることがあるのです。布教と聞くと、神名流し、路傍講演、パンフレット配布、個別訪問などを思い浮かべ、「それは教会長がすること」と思われる方もいるかもしれません。しかし教祖は布教を「にをいがけ」と教えられました。つまり、特別な行動だけが布教ではなく、日々の言葉、態度、ふるまいそのものがにをいがけとなり、信仰は広がっていくのです。今日はそのことを心に留めていただきたいと思います。

数年前、淀詰所に御本部から電話があり、三重県立高校女子バスケットボール部が親里で合宿をしたいので宿泊場所として詰所を使わせてほしいという依頼がありました。詰所は設備が十分ではなく、エレベーターもなく、エアコンも最近ようやく整備したばかりでしたが、それでよければと喜んで受け入れました。スタッフ一同が親切に世話をしたところ、生徒たちは大変喜び、翌年以降も春・夏・冬の長期休暇ごとに毎年合宿に来るようになりました。

ある年、顧問の先生から「一般生徒の1人がポルトガル語を学びたく、天理大学を受験したい。初めての天理なので試験期間中、淀詰所で世話をお願いできないか」という相談がありました。詰所は快く受け入れ、その女子生徒・和代さんは無事に天理大学ポルトガル語学科に合格し、女子寮で生活を始めました。入学して間もない頃、和代さんから「別席で神様の話を聞きたいです」と電話がありました。詰所側は何も勧めていませんでしたが、彼女は自ら別席を運び始めました。さらに学生会活動に参加するため「ハッピが欲しいです」と連絡があり、1回生の終わりには「満席になりました。お授けいただきたいです」と申し出ました。毎月欠かさず別席を運んでいたことが分かり、詰所側は驚きました。理由を尋ねると、和代さんはこう語りました。初めて天理を訪れたとき、詰所の人々が親身に世話をしてくれたことが嬉しかったこと。大学に入ると、寮の先輩や先生がとても親切で、同級生が体調を崩すと皆が「おさづけ」を取り次ぎ、添い願いをしていたこと。その姿に心を打たれ、「自分も人のために祈りたい」と思い、別席を運び続けたのだということでした。

その後も学生会や淀の女子青年の活動に熱心に参加し、卒業後は地元に戻らず奈良の企業に就職し、親里で生活を続けました。就職から1年ほど経った頃、和代さんから「結婚します」と連絡がありました。相手は天理大学の同級生で、北海道オホーツク海沿いの小さな教会の後継者でした。和代さんは「将来教会長夫人になります」と迷いなく答え、教祖殿で結婚式を挙げました。披露宴でこの経緯を話すと、三重県立亀山高校の顧問の先生たちは驚き、「私たちも別席の話を聞かせてほしいです」と言い、4人が別席を運びました。また和代さんの家族・親族にも結婚式の意味を説明すると、5から6人が別席を運びました。

この一連の出来事で、詰所側は誰にも「別席に行きなさい」「信仰しなさい」と言っていませんでした。すべての始まりは「目の前の人に少しでも喜んでもらいたい」「親切の限りを尽くしたい」という心からでした。高安大


言葉の大切さについて話される金山先生

教会初代会長・松村吉太郎先生は「布教というのは親切の限りを尽くすことである」と語られています。神名流しや路傍講演だけが布教ではなく、日々の親切そのものがにをいがけとなります。縁もゆかりもなかった1人の女子生徒が、今は北海道の教会で教会長後継者夫人として元気にお道を通っています。冬には「雪が20センチほどです」と笑いながら話すほど、すっかり北海道の人になっています。今日参拝の皆さんにも、布教とは特別なことではなく、誰もが心一つでできる「親切の限り」であることをお伝えしたいと思います。

実は私、YouTubeに出演しているのです。今日、福山駅に着いた際、芳井分教会の佐藤会長と大学時代の同級生・武内君が迎えに来てくれました。車中でYouTubeの話になり、「僕が出た動画を見た?」と尋ねると、2人とも「見ていない」と言いました。そこで今日は、私がYouTubeに出演することになった経緯をお話ししたいと思います。

私はSNSが非常に苦手で、原稿も手書きです。LINEやパソコンで文字を打つ程度はできますが、YouTubeなどは全く縁がありませんでした。その私がYouTubeに出ることになったのは、今から4年前、コロナ禍の終わり頃のことです。緊急事態宣言は解除されていましたが、飲食店は夜9時閉店という時期でした。ある日、先輩教会長2人から「コロナも落ち着いてきたので食事をしよう」と誘われ、京都四条烏丸で会食しました。9時に店が閉まり、私は京阪電車で帰るため四条河原町の交差点に向かいました。そこは京都随一の繁華街で、人通りが多い場所です。信号待ちをしていると、30歳ほどの青年が「今晩泊めてください」「ワクチン接種済み」と書いたボードを掲げて立っていました。ヒッチハイクのようですが、コロナ禍の夜に泊めてほしいと書いても誰も立ち止まりません。身なりは整っており、ホームレスのようにも見えず、何か事情があるのかと思い、私は思い切って声をかけました。「よかったらうちに泊まるか。ただし天理教の教会やで」。青年は「ぜひお願いします」と答え、私は彼を淀分教会へ連れて帰りました。

実はその青年はユーチューバーでした。首からカメラをぶら下げて撮影しており、出会った瞬間から録画していたそうです。教会に着くと夕食を出し、彼は天理教についていろいろ質問してきました。「いつ始まったのか」「教祖はどんな方か」「教えは何か」など、私は答えながら過ごしました。翌日、彼は「僕はユーチューバーです」と名乗り、動画をアップしてよいかと尋ねました。彼は「シュラフ石田」という無名ユーチューバーで、再生数は数百から数千回程度でした。私は「天理教の動画なんて誰も興味を持たないだろう」と軽く承諾しました。しかし彼は「天理教は名前は知られているが、教えや教会の生活を知らない人が多い。動画にしたら興味を持つ人がいる」と言いました。その後、「天理教の教会に泊めてください」という動画がアップされると、彼の動画の中で唯一バズり、再生数は33万回に達しました。これをきっかけに彼と私は親しくなり、彼は関西に来るたびに教会に泊まり、朝づとめにも参加するようになりました。天理にも案内し、別席も運んでくれました。

さらにその動画が話題になっている頃、今度は有名ユーチューバー「ジョーブログ」のマネージャーから「教会に泊めてほしい」と連絡がありました。登録者数200万人の人気ユーチューバーで、私は影響の大きさを考え一度断りました。しかし翌日、本人から直接電話があり、「ぜひ金山さんに出てほしい」と強く依頼されました。ジョーブログさんは大阪・生野出身で、子どもの頃に天理教の友達に誘われて「こどもおぢばがえり」に参加した経験があり、天理教に偏見はなく、むしろ良い印象を持っていると言いました。さらに、安倍元首相銃撃事件をきっかけに宗教への注目が高まり、「天理教を正しく紹介したい」と語りました。私はその思いを受け、出演を承諾しました。撮影は台本なしで自然体のまま行わ

れ、神殿やおぢばの施設を案内し、淀詰所に宿泊してもらい、炊事本部の食事や天理スタミナラーメンなども紹介しました。編集に時間がかかり、動画が公開されたのは4年前の9月27日夜10時でした。タイトルは「天理教とは何か」。公開後一晩で30万回再生され、現在は215万回を超えています。そして翌日からは全教一斉にをいがけデーでした。ジョーブログさんはその日程を知らず、偶然その前夜に動画が公開されましたが、結果として多くの人が天理教に関心を寄せる絶好のタイミングとなりました。

私は若い頃、「一人万人に向かう」という有名なおさしづが大好きでした。しかし同時に、一人で万人に教えを伝えることなど現実的に可能なのかという疑問も持っていました。ところが時代が進み、YouTubeが世界中に広まった今、たった一晩で数万人、数十万人に「天理」の2文字が届くという現実を目の当たりにし、おさしづの意味が深く胸に響くようになりました。おさしづには「精神一つの理によって一人万人に向かう。神は心に乗りて働く。心さえしっかりすれば、神が自由自在に心に乗りて働くほどに」とあります。私がYouTubeに出たいと思ったことは一度もありません。むしろ断っていたほどです。それなのに動画が広がった元はどこにあったのか。それは、コロナ禍の夜、四条河原町で「今晩泊めてください」と書いたボードを持つ青年に出会い、「この青年は助けを求めているのではないか」と感じ、声をかけたことでした。私は「泊めてください」ではなく「助けてください」と読んだのです。その一言の親切が、後にYouTubeで天理教が紹介される流れにつながっていきました。

教祖の逸話編177番には「教祖はいつも、一日でも人一人なりとも助けねば、その日は越せぬと仰せになっていた」とあります。いつも、という言葉が大切です。たまにでも時々でもなく、常に人を助ける心で通られたのです。そうした心で日々を通ると、目に映る光景が変わってきます。意識が変わると、見えるものが変わるのです。私は俳句を始めてから、季語を意識するようになり、信者さんの家や教会で飾られている花が自然と目に入るようになりました。以前は全く気づかなかったのに、俳句を通して意識が変わると、花の美しさが飛び込んでくるようになったのです。今日も笠岡大教会の客間で飾られたゆりの花に気づき、接待の方から「そんなことを言われる先生は初めてです」と言われました。同じように、「一人でも助けたい」「一人でも教えを伝えたい」という心で通ると、今まで気づかなかった人の困りごとや声が自然と目に入ってきます。その人に「天理」の2文字、「天理教」の3文字をそっと伝えることができます。みかぐらうた七下りの「ひとことはなしはひのきしん　にをいばかりをかけておく」について、永尾隆徳先生は「理路整然と教えを説くことではなく、『天理』の2文字を相手の耳に入れるだけで立派な一言話になる」と述べています。例えば「日曜日は天理に行きます」「私、天理教なんです」と一言伝えるだけでよいのです。一言の親切、一言の声かけが、にをいがけとなり、人を助け、心を動かすのです。

9月は「にをいがけ強調週間」として定められており、神名流しや路傍講演、個別訪問ができれば理想ですが、何より大切なのは、日々「一人でも助けたい」「一言でも教えを伝えたい」という心を強く意識して通ることです。残り10日間、その心を深めて過ごしていただきたいと思います。

最後に「種をまく」ことについてお話しします。教祖140年祭に向かう三年千日の旬には「旬に種をまこう」と繰り返し教えられました。しかし、旬以外にも種をまく意味があります。天理教校学園で国語を教え、現在は綿作りをされている梅田正之先生は、種まきの試行錯誤の中で「旬を外しても思わぬ成長を遂げる種がある」と述べています。旬にまくのが最良ですが、旬を外した種が病害虫を免れたり、気候の変化で急成長したりすることもあるのです。そして先生は「まいた種がすべて育つわけではないが、まかない種が育つことは決してない。さらに大事なのは、種をまこうとする心を持つことです」と語られました。年祭の旬は終わりましたが、今も種をまくことはできますし、まこうとする心こそが最も大切です。今日の話の流れで言えば、「この道の教えを一人でも多くの人に伝えたい」という心で日々を通ることが、何より尊い種まきです。休日にもかかわらず大勢の方が熱心に耳を傾けてくださり、心より感謝申し上げます。以上でお話を終えさせていただきます。

（整文　佐藤真孝）

客殿障子張り替え ひのきしん実施

管理部

管理部（虫明立生部長）は10月3日（土）午前9時から客殿及び会長宅の障子張り替えひのきしんを実施、約70人余りが参加した。

午前8時過ぎから数人で障子張り替えに必要な道具の準備を行い、客殿の1室を作業場にするため畳の上にブルーシートを敷き、張り替えが出来るように長机を組んで準備に備えた。また鴨居の額や柱などにも傷がつかない様に配慮した後、ひのきしんに来た人から順次1階・2階の各部屋の障子を外して、外のコンクリートの吹き付け柱に立て掛けていった。

午前10時頃からは例会日に合わせて参加した婦人会も加わり、大勢の人手で水をかけた障子紙を剥がしてはヘラで仕上げていった。婦人会では手際の良い作業が進められ午前中で水洗いひのきしんは終了し昼食後それぞれに解散した。

午後からは人数も大幅に減ったため3か所設けていた障子を張る場所も2か所に絞り、少人数で障子を張り続けたが、残りは翌日にしようと申し合わせて午後5時頃には片付けをして当日のひのきしんを終了した。

4日（日）の午前中はそれぞれにご用があったため、午後からの障子張りひのきしんとなった。全ての障子を張り終えたあと、はめ戻す時には外した障子の場所に苦戦しながらも何とか会長宅以外の客殿の障子の取り付けは完了した。その後、刷毛（はけ）やのり箱などの洗い物・道具の片付けを済ませて午後5時ごろに解散した。

大勢の皆様のご協力を頂き、無事ご臨席総会までに客殿の障子の張り替えが出来ました。本当に有難うございました。（部長　虫明立生）



晴天の中庭で障子紙剥がし



乾いた桟に糊を乗せる



おつとめ奉仕人総掛かりで貼り／切り

末の弟のまなざし 15

▼簡単な著作目録と「みかぐらうた」の英訳について

豊明兄の著作 今わかっているだけ書いておく。順不同

1 Journalistic Japanese reader : selected materials from Japanese newspapers (1962)

2 Fundamentals of Japanese 清瀬義三郎氏との共著(1975)

3 みかぐらうた = MIKAGURAUTA : An english translation in original meter 安田ケネス氏 共著(1987)

4 AIDS — エイズ問題をめぐって 天理教人に期待するもの 1994(国内布教伝道部刊)

5 The Dynamics of The Archetypes in Japanese Shinto Mythology(日本神道神話における元型(アーキタイプ)の動態 分量 506leaves (博士論文)

6 A Study of Tenrikyo: With Special Reference to the Teaching of God and Man.(南加大学修士論文) 1955年 248〈ージ

7 Mohamed the Hero of the Islamic Consciousness 1975 (Tenri Journal Of Religion 12)
8「Image of Man」(Tenrikyo: Its History and Teachings 天理教海外伝道部刊)
9 The Shinto Myth－Meaning Symbolism and Individuation(1983) Tenri Journal of Religion 15・16・17・18・19号

その他 ふれあい岡山 1993年3月から5月「ふるさとは遠きにありて」
天理時報 世界の話題 立教156年2月7日号から月1回 立教156年12月6日号まで11回(第1回：小惑星の接近、第2回：成層圏からの眺め、第3回：エイズ／性の原点に思案を、第4回：たばこ／信仰者から禁煙を、第5回：中田厚仁さんの事件に思う／「たすけ心」とは、第6回：服部君射殺事件から／銃器のいらない世界に、第7回：捕鯨問題に考える／生命を戴く〝食〟に感謝を、第8回：共存共生の地球に／「国際先住民年」に寄せて、第9回：NY会社社長生き埋め事件／尊厳を持って老いを生きる、第10回：中近東和解へ／「一れつきょうだい」への大きな前進、最終回：木星異変と世界／天体情報から何をくみ取るか)

この中で、3の「みかぐらうたの英訳の試訳について」の序文を、少し長くなるが掲載しておきたい。私には、これが豊明兄の人生のメインテーマであったように感じる。

戦後における天理教初の留学生という御命を受け、ロスアンジェルスの南カリフォルニア大学の大学院に入るべく、1951年(昭和26年)1月日本を後にして渡米した私であったが、その後紆余曲折を経てやっと単位獲得を終わり、修士論文(英文約250ページ)の題目を「天理教の研究」にきめたのは1953年の秋であった。爾後鋭意努力し、論文の筆が運ばないときは、はるか西の空おぢばに向かって、1日僅かでもと、親神、教祖にお願いして書かせて頂いたものであった。

この論文の中に、「みかぐらうた」の拙訳を収録させて頂いたが、その英訳にあたってぶつかった問題は、それが教祖を通して、それも親神の人間への語りかけとして出来上がった原典の1つであり、而も歌の表現形式を取っているものであるが故に、私のその時点での英語力では到底不可能な事に近いという事であった。それまでに出来ていたものとしては、DCグリーン氏や岩井尊人氏及び、PEエッケル氏の英訳があったが、自分の作成する論文なるが故にそれを借用する訳にも行かず、自己の英語力に不甲斐なさを感じながらも、全力を尽くして英訳させて頂いて論文のなかに納めさせて頂いた。論文を完成して提出したのは、1954年の夏であった。幸い論文は受理され、翌1955年1月に修士号を獲得させて頂いたが、入れさせて頂いた「みかぐらうた」の英訳の再度の推敲は、次の段階即ち博士課程に入る目的での学費捻出のための米国陸軍外国語学校での教務従事(1954～56)や南加大学博士課程修学傍ら同大学東洋学科での教鞭のため、その時を持つに到らなかった。博士課程での研究は、修士課程より一段と厳しく、教材を作成しながら教鞭をとり、勉学研究に追われる私には時間的余裕など全くなく、心にかかりながらもついにその英訳を磨き上げる事ができなかった。

1960年(昭和35年)博士号を獲得すると、東部ニュージャージー州の大学より話があり、1961年正式に米国の大学で助教授として教壇に立つ身となったが、日本語プログラムの創設・拡充の仕事を命ぜられ、またしても忙事に身をすりへらす事となった。1963年招聘されて現在奉職しているインデアナ大学に転任したが、この大学においても同様であった。そうこうする内に、1966年(昭和41年)即ち教祖八十年祭の年を迎えさせて頂き、「みかぐらうた」の英訳について拙訳を取り出してみたが、それの具体的磨き上げを如何にさせて頂くかについて色々な問題がでてきた。先ず、私の語学力であったが、もともと私の英語の力は、旧制中学校5年間の英語学習のみで、詩や歌の英訳ということになると、その素養は皆無であった。長年の米国滞在で身につけた英語の力には、読み書き聴き話すという点での一応の能力は出来ていたが、これとて所謂「借りた言葉」であって、幼い頃から親しんできた自国語と比べると、その洗練さという点で自信の持てるものではなかった。まして詩歌の英訳となってくると、専門的な知識のみならず、英詩における押韻とか、句、文の流麗さという点で、長年の作詩の経験なしには、翻訳などということは到底考えられないことであった。

私の英詩に関する知識は、その時点でまさに焼け石に水であった。事実、今までになされた「みかぐらうた」に関する諸種の英訳すら、詩形・用語・音節の点において必ずしも完全なものであったとは言えない。この意味で私は、「みかぐらうた」の英訳は、英詩及び和歌・俳句の専門家にして詩の和訳及び英訳に通じ、しかも十二分な信仰の持ち主で英訳という行為を親神への祈りとして行ずることのできる敬虔なる心にみちた人物に委ねるべきであると痛感するに至った。

天理教原典の翻訳は単なる言葉の置き換えを意味するものでなく、日本、それも大和の言葉という象徴を通しての親神の啓示、そして又その表現を、外国語という全く違った言語形式を通して、それが初めて神の側から語り掛けられた大和の言葉と同じだけの質量と内容をもって外国の人々の心にそれぞれの国の言葉で通じるものに書き換える。即ち、もし仮に神がその言葉を使って意思伝達を行ったとすれば、必然的にそのような表現をとったであろうというような言葉にまで表現を高めて書き換えるべきである。従ってそれは単なる方便的なもの、便宜的なものであってはならない。もちろん私的なものであってもならない。それは自己を無にして神の意思を時間・歴史のなかに招ずべき行為でなくてはならない。かくの如くすることにとってのみ、神の啓示の道具、否、象徴としての翻訳、即ち、哲学的にいうと、一般者の自己限定ともいえるものに近い翻訳が成り立つものである。教祖が身を隠され存命の理としてお働きを始められてから来年は、百年を迎えることとなり、全教挙げて元一日に復るべく白紙になり無になっての努力を続けてきている当今、私は私に与えられた立場で、遠い異郷とは言えそれなりに三年千日の思いを内に燃やさせて頂いてきたが、これに先立ち今度こそ「みかぐらうた」の英訳実現をと念願して八十年祭の年より思い続けていた。その私の思いが通じたものか、1966年には国際的に有名な俳句と能の英訳の権威、安田 健(Kenneth K. Yasuda)教授が私の所属する東亜言語文化学科にハワイ大学より転任して来られた。教授は東京大学で文学博士を獲得され、その数々の著書の中には万葉集・俳句・能の英訳を手掛けられたものがあり、その翻訳の流麗さは英語の言葉の音節を日本の詩歌のそれに合わされたものとして他に類例を見ない。

私がこのような不思議な出会いをした安田教授は、名京大教会部内のサクラメント教会の信徒安田健次郎氏の次男として1914年に出生されたが、生来虚弱、幼くして日本に送られ高知市の高知病院に入院したきりの生活をされていた。以下次号へ

大教会だより

◎教人資格講習会修了者

立教189年10月11日終講

上父岡　佑一郎

◎立教189年秋季大祭参拝

笠岡講社　前会長様
福山武内正美
髙屋今川昌彦
神邉岡﨑真一
島根大教会長様
久松武内正美
鶴山上原繁道
弥髙山前会長様
陽備大教会長様
金浦上原繁道
興明岡﨑真一
ひろさと大教会長様
陶山中島誠治
芳井今川昌彦
海松ヶ岡中島誠治
東悠田中隆之
吸江門脇元教
照陽大教会長様
輝美濃今川昌彦
新山邑中島誠治
皆部上原繁道
明石市大教会長様
上下武内正美
府中市田中隆之
東城大教会長様
服部田中隆之
島中門脇元教
驛家上原繁道
葦陽岡﨑真一
湯田原上原繁道
備中大教会長様
神昭大教会長様
美之郷大教会長様
錦備門脇元教
神免大教会長様

九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます
親神様には「月日にわにんけんはじめかけたのわ よふきゆさんがみたいゆへから」との思召から 人間とこの世界をお創造下されたばかりでなく 日夜変わらぬお働きを下され 陽気ぐらしへとお導き下さいます事は誠に有り難く勿体ない極みでございます 私共は日々喜びと感謝の気持ちを心に湛え朝夕に御礼申し上げると共に一人でも多くの人にこの限りない親心を伝えるべくたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております
その中にも今日の吉日は理のお許しを戴いた御祭り日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝とたすけ心一杯に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて九月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃のご高恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて今月はにをいがけ強調の月でありますから 一層勇んでにをいがけおたすけに励ませて頂いております
また本日は金山雄大先生をお招きして布教推進講習会を開催致します 先生のお話をしっかりと胸に治めてより勇んでにをいがけに励み 更に月末の全教一斉にをいがけデーに臨ませて頂く所存でございます
何卒親神様には 親を信じ親に凭れてたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早く建て替わりますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くにゑ刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共に道の上に真実を尽くされた役員 部内教会長 教人 よふぼく信者の神霊 新しく合祀されました 西江昌直大人の神霊 松本幹則大人の神霊 諸々の神霊の前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます
祖霊様方には親神様教祖のお見定めにより身上事情を通して早くからこの道に引き寄せられ真実の親を知り 喜びと感謝の心一杯に御恩報じの道をお通り下さいました 今日のお道が結構な姿をお見せ頂いておりますのは 親神様教祖の御守護お導きの賜物である事は申すまでもありませんが また一つには祖霊様方のそうした我欲を忘れ御恩報じに徹し切られた真実のお陰と 私たちは日々朝夕に御礼申し上げると共に 祖霊様方にもお喜び頂きたいと 届かぬながらもたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております
その中にも本日は 秋の霊祭を執り行う日柄でございますので 御前に心づくしの種々の物を供えて 只今はおつとめ奉仕人 代表の部内教会長一同 陽気に勇んでてをどりをつとめさせて頂きました 続いて祖霊様方の御前に座を移し 在りし日を偲び御遺徳を称えお礼申し上げる皆の真実の姿をご覧下さいまして 祖霊様方にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さていよいよ再来月十一月二十三日には 青年会長様御臨席総会を迎えます おぢばからお越し下さる大亮様を 一手一つに笠岡一丸となってお迎えさせて頂き 今後の歩みに繋がる大きな勇みを頂戴できるように 努め励ませて頂く所存でございます
何卒霊様方には 目まぐるしく移り行くこの時代においても 親孝心一筋にたすけ一条に邁進する皆の真実の状をご覧下さいまして 年祭の年を喜び一杯の勇んだ心で通り切れますようお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十九年 九月月次祭 祭典役割表

祭主	扈者	
大教会長様	中島誠治	山野弘実

講話
布教推進講習会

役割／区分	地方			おつとめをどり				ちゃんぽん	笛	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	三味線	琴	胡弓
座りづとめ	門脇元教	山田敏教	岡崎治喜	大教会長様	前会長様	上原繁道	大教会奥様	前奥様	田中ますみ	中村剛	吉岡壽	田林久嗣	中村義太郎	山野弘実	上原順子	内海安子
前半	佐藤道孝	虫明立生	中村剛史	中島誠治	中村道徳	淺野明教	武内正美	中村初美	山野なつ	赤木素志	岡崎治喜	岡崎真一	田林久嗣	杉原善朗	三島照美	室悦子
後半	田中隆之	上原浩	上原繁次	今川昌彦	吉岡誠一郎	横山逸郎	門脇加津	横山小智榮	吉岡八恵	高木昭祥	谷内秀自	中村剛史	内海史郎	上原志郎	高木孝子	田中つかさ

十一月講話
虫明立生

賛者		指図方
赤木素志	杉原善朗	門脇元教

立教百八十九年 秋季霊祭 祭典役割表

祭主	扈者	
大教会長様	今川昌彦	横山逸郎

役割／区分	地方			おつとめをどり				ちゃんぽん	笛	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	三味線	琴	胡弓
前半	門脇元教	淺野明教	佐藤真孝	大教会長様	前会長様	上原繁道	大教会奥様	前奥様	武内正美	上原浩	吉岡誠一郎	虫明立生	中島誠治	杉原善朗	岡崎真一	中村初美	門脇加津	吉岡八恵
後半	香取雅人	武内清和	余村元	津森朋之	掛谷宣和	三代拓己	室悦子	田中つかさ	上原千枝子	枝廣隆文	田中亜輝	瀬藤友昭	仙田幸次	藤本晴司	雜賀元生	山野なつ	岡崎豊子	横山小智榮

賛者		指図方
上原繁次	中村剛史	上原志郎

詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、２日前までには、必ず詰所へご連絡ください。

・食事をしない（宿泊のみの）場合でも、２日前には申し込みをして下さるようお願い致します。



カウントショップ開店のチラシが新聞に入っていた。上級教会までの距離はだいぶ遠くなるが、ちょっと寄ってみようと思った。

自教会から上級教会への参拝の道順は決めていてほとんど変えることはない。距離、時間的にも丁度いいからだ。

昨年の6月頃だったと思う。ディスカウントショップ開店のチラシが新聞に入っていた。上級教会までの距離はだいぶ遠くなるが、ちょっと寄ってみようと思った。

途中、道路脇に軽トラックが1台停っていて、男の人が荷台から何かを降ろしていた。通り抜ける際、顔が合った。どこかで見た様な顔だ。相手もこちらをじっと見ていた。気になるので降りて行った。何と、中学の同級生。お互い年はとったが面影は変わっていない。大変仲が良かったが、卒業以来、会っていなかった。定年退職後、米、野菜作りをしているとのこと。

以来、時々、農作業帰りに、軽トラックで教会に寄ってくれる。荷台には自慢の米、野菜が乗っている。どうしても、お金は受け取らない。物価高の昨今、本当に申し訳ない。そして有り難い。

たまには『よりみち』をするのもいいもんだ！

（き）

試案　天理教笠岡大教会史

十二月二十六日　輝伯分教会六代会長三代幸任命（五代会長砂流勲辞任）
就任奉告祭：昭和五十八年二月二日

この年、前年の諭達第三号の発布を受けて本部では三年千日決起の集いが開催また直属教会長夫妻の講習会が開催されるなど教祖百年祭への活動が徐々に盛り上がりを見せた年であった。昨年百万人を突破したよふぼく総数は更に増加、大教会よふぼく総数も一万人に迫る布教活動の活発化の感じられる年であった。また福山、高屋、神邉の各分教会で、創立九十周年記念祭が執り行われた。

この年の大教会年間統計　初席者五百三十六人　おさづけの理拝戴者二百八十六人　修養科修了者百四十五人　教人登録者六十八人　教人総数一千九百九十五人　よふぼく総数九千六百九十一人。全教よふぼく総数百万九千五百五十九人。

一月二十二日　三代会長・本部員上原繁雄出直（九十歳）
一月二十四日　真柱様斎主のもと三代会長上原繁雄告別式（第八十三母屋・笠岡詰所）
一月二十六日　宇津戸分教会三代会長井上モモヨ任命（二代会長山下勲　昭和五十七年十月二十一日出直）
就任奉告祭：三月三日
二月八日　大教会史編纂常任委員会（この年二十六回開催）
二月二十三日　三代会長五十日祭（第八十三母屋・笠岡詰所）
三月二十一日　笠台布教所開設（台湾）（所長：江黄招妹）
三月二十一日　教祖百年祭布教推進隊研修会
三月二十二日　三代会長合祀祭（大教会祖霊殿）
三月二十六日　輝美濃分教会三代会長谷内伸自任命（二代会長谷内信美辞任）
就任奉告祭：五月五日
三月二十六日　上小畠分教会三代会長田中一矩任命（二代会長克郎辞任）
就任奉告祭：四月三日
三月二十七日　第三十回春季英語講習会（五〇人　三〇日まで）
四月一日　少年会鼓笛講習会（二六〇人　四日まで）

昭和五十八年（立教百四十六年・1983年）

四月　立教百四十六年上半期布教実修会始まる（六月まで）
五月二十六日　神驛分教会四代会長渡邉孝信任命（三代会長渡邉定夫　昭和五十七年八月五日出直）
就任奉告祭：七月三日
五月二十九日　筒井敬一先生を迎え青年会笠岡分会総会（七〇〇人）
六月二十一日　巡教員・桝井幸吉先生、浅野孝雄先生を迎え本部巡教（七〇〇人）
六月二十六日　春野喜代彦、村上領一両先生を迎えて教会長講習会（一三七人）
七月二十六日　摩耶分教会四代会長岡本久善任命（三代会長川合津多恵出直）
就任奉告祭：九月十五日
七月二十五日　こどもおぢばがえり第一団出発（高屋・久松　二八日まで）
七月二十九日　こどもおぢばがえり第二団出発（福山　八月一日まで）
七月三十日　こどもおぢばがえり第三団出発（神邉　八月二日まで）
八月一日　こどもおぢばがえり第四団出発（直轄　四日まで）
八月四日　第三十回夏季英語講習会開催（六〇人　九日まで）
八月二十日　こかん様に続く会（三〇人）
八月二十一日　藤井明男先生を迎え教祖百年祭布教推進隊研修会（三〇人）
八月二十六日　神免分教会神殿増築及内部改造
遷座祭：九月九日
鎮座祭：十一月四日
奉告祭：十一月五日
八月二十八日　少年会おつとめまなび総会（六百人）
九月　立教百四十六年下半期布教実修会（十二月まで）
十月二十一日　大教会役員任命
幹部承事：田中一之　門脇誠致
准承事：森本忠平
十月二十六日　稲瀬分教会神殿増築及屋根葺替
遷座祭：十二月三日
鎮座祭：十二月四日
十月二十九日　松田武信先生を迎え布教所長研修会（一〇七人）
十一月二十一日　板倉知治先生を迎え縦の伝道講習会（五〇〇人）

この年一月、大教会三代会長・本部員上原繁雄が出直した。葬儀は第八十三母屋笠岡詰所で、真柱様斎主で執り行われた。

この年の大教会年間統計　初席者六百三十人　おさづけの理拝戴者三百三十二人　修養科修了者百七十人　教人登録者八十一人　教人総数二千二十九人　よふぼく総数九千九百八十五人。全教よふぼく総数百二万五千二百二十五人。

昭和五十九年（立教百四十七年・１９８４年）

一月十一日　大教会史編纂常任委員会（この年以後十五回開く）
一月十九日　三代会長・上原繁雄一年祭（清水國雄先生斎主　本部祖霊殿）
一月二十二日　三代会長一年祭（大教会祖霊殿）
一月二十六日　芦田川分教会親神様・教祖・祖霊様お社取替及神殿屋根葺替
遷座祭：二月四日
鎮座祭：二月十八日
奉告祭：二月十九日
三月二十一日合祀祭（大教会祖霊殿に十五柱を合祀）
三月二十七日　第三十一回春季英語講習会開催（五〇人）
四月一日　少年会鼓笛講習会（二八四人）
四月二十六日　稲讃分教会設立（初代会長下村信義任命）
鎮座祭：五月八日
奉告祭：五月九日
設立場所：香川県丸亀市富士見町五丁目十六番地十二号